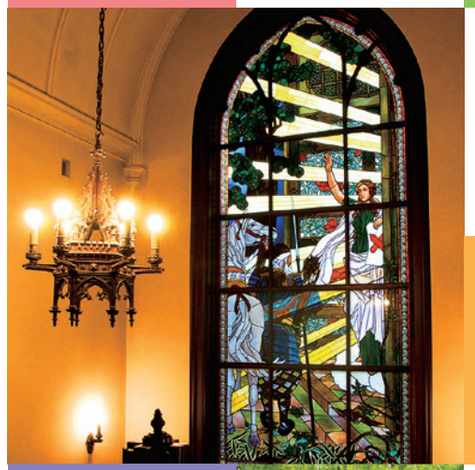
Keio University

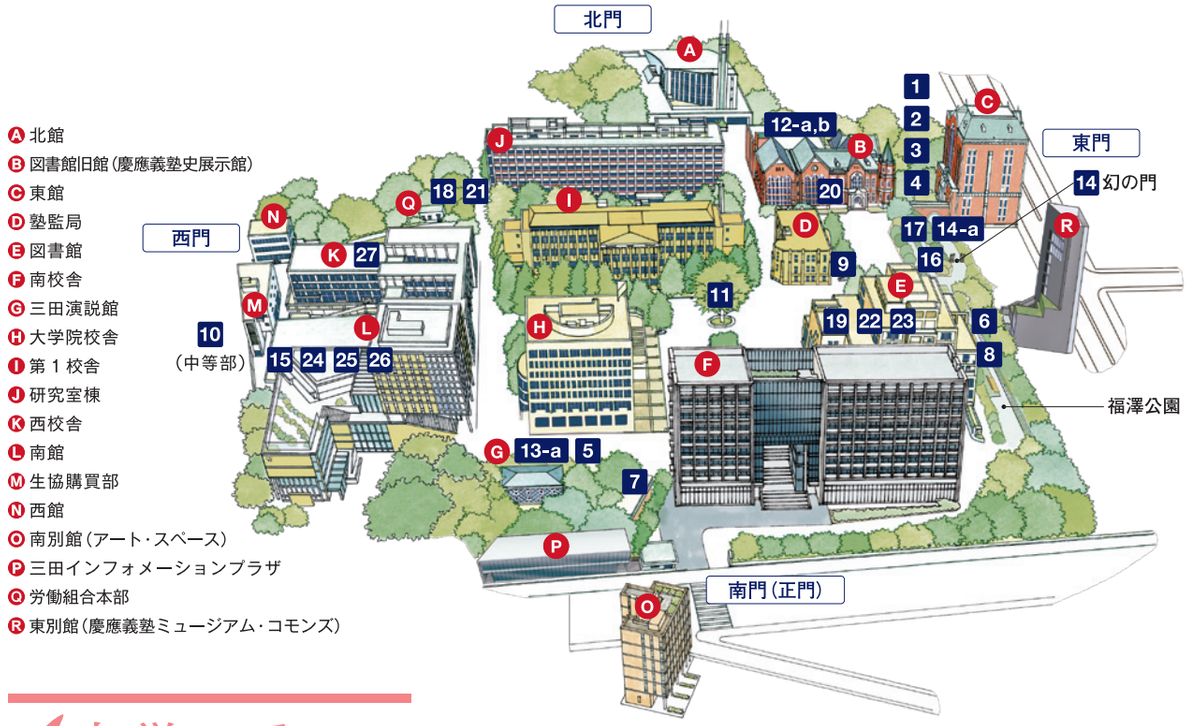


MITA CAMPUS HISTORY & ART GUIDE

三田キャンパス 歴史芸術ガイド

MITA CAMPUS HISTORY & ART GUIDE ［三田キャンパス歴史芸術ガイド］

「丘の上には空が青いよ」――慶應義塾の応援歌で歌われるように、三田キャンパスは
約5万㎡の都心の丘に広がる、緑豊かなキャンパスです。図書館旧館や三田演説館などの歴史的な建造物や、
数多くの記念碑や芸術品など、美しい三田キャンパスの姿をご紹介します。



- Ⓐ 北館
- Ⓑ 図書館旧館（慶應義塾史展示館）
- Ⓒ 東館
- Ⓓ 塾監局
- Ⓔ 図書館
- Ⓕ 南校舎
- Ⓖ 三田演説館
- Ⓗ 大学院校舎
- Ⓘ 第１校舎
- Ⓙ 研究室棟
- Ⓚ 西校舎
- Ⓛ 南館
- Ⓜ 生協購買部
- Ⓝ 西館
- Ⓞ 南別館（アート・スペース）
- Ⓟ 三田インフォメーションプラザ
- Ⓠ 労働組合本部
- Ⓡ 東別館（慶應義塾ミュージアム・コモンズ）

文学の丘 Hill of literature

図書館旧館八角塔脇の小高い丘には義塾ゆかりの文人の記念碑や
胸像が建てられ、通称「文学の丘」と呼ばれています。

1

2

3

4

1 佐藤春夫詩碑

詩人、小説家。「さまよひ来れば 秋草の 一つ残りて咲きにけり おもかげ見えてなつかしく 手折ればくるし花散りぬ」と刻まれています。花立ての下には愛用の万年筆が埋められています。

2 吉野秀雄歌碑

歌人。慶應義塾の学生時代に詠んだ歌「図書館の前に沈丁咲くころは恋も試験も苦しかりにき」が刻まれています。

3 久保田万太郎句碑

小説、戯曲、俳句、演劇で活躍した文人。碑面には、小山内薫を偲んだ句「しぐるゝや大講堂の赤れんが」が刻まれています。久保田の遺した資金により、現在も記念講座が開講されています。

4 小山内薫胸像

「新劇の父」といわれ築地小劇場を創設した小山内薫の没後30年を記念して建てられた胸像です。1964年に歌舞伎座から三田に移設。

歴史｜記念碑 History & Monument

5

7

8

6

9

10

11

5 福澤諭吉胸像

最初に像が設置されたのは1954年、福澤諭吉119回目の誕生日でした。この胸像は最もよく福澤の面影を伝えているとされています。

6 福澤諭吉終焉之地記念碑

1901年2月3日、福澤諭吉はこの地にあった自邸で亡くなりました。記念碑には、「福澤諭吉終焉之地」の文字と経歴が刻まれています。

7 独立自尊の時計塔

慶應義塾商工学校（1949年廃校）の創立70周年を記念して1975年に建てられました。時計塔の隣には同じく創立100周年を記念して、2005年に桜が植えられました。

8 旧制四学校記念碑

戦後廃校となった慶應義塾の旧制四学校（商業学校・商工学校・工業学校・高等部）を記念して、2001年に建立されました。

9 VIRIBUS UNITIS

塾監局の前にある小さな石碑は1909年の普通部卒業生が寄贈したもの。「VIRIBUS UNITIS」という碑文は、ラテン語で「力をあわせて」という意味です。

10 ユニコン像

かつてあった大講堂の正面バルコニーに付設されていた一対の怪物像。修復、復元され、現在は中等部玄関前に設置されています。ユニコンの似姿は1962年、野球の早慶戦に登場し、以来マスコット的な存在となっています（見学の際は中等部正門外からご覧ください）。

11 大銀杏（おおいちょう）

大正時代の写真にも写っている中庭の大銀杏。木を囲むようにベンチがあり、学生の待ち合わせなどにも利用される三田キャンパスのシンボル的存在です。

建物 Architecture

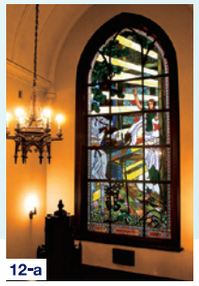
12

13

13-a

14

14-a


12-a

12-b

15

12 図書館旧館（重要文化財） B

義塾創立50年を記念して1912年に建てられた図書館旧館は、赤煉瓦造り、ネオ・ゴシック様式の由緒ある建物で、現在も図書館書庫などとして利用されています。

12-a ステンドグラス

階段踊り場のステンドグラス（小川三知作）は、封建社会を象徴する鎧姿の武将が、近代文明のシンボルであるペンを手にした女神を迎え入れる図柄で、「Calamvs Gladio Fortior＝ペンは剣よりも強し」とラテン語で記されています。1915年に完成したものの戦災で焼失。1974年に再建されました。

12-b 大時計

外壁にある白藍褐色の陶器をはった大時計の文字盤の数字の部分には「TEMPUS FUGIT＝時は過ぎゆく（光陰矢のごとし）」というラテン語が刻まれ、零時にあたるところには砂時計がデザインされています。花崗岩の外輪を含め直径は210cmです。

13 三田演説館（重要文化財） G

1875年に開館した、日本初の演説会堂。英語の「スピーチ」を演説、「ディベート」を討論と訳したのは、福澤諭吉です。福澤はここで聴衆を前に演説を行っていました。

13-a 福澤諭吉演説像

三田演説館内には、洋画家・和田英作による原画（空襲で焼失）をもとに、1937年に弟子の松村菊麿が模写した演説中の福澤の全身像が掲げられています（通常、館内の見学はできません）。

14 幻の門

旧島原藩邸黒門を改築して1913年に竣工した旧東門は、「幻の門ここすぎて叡智の丘にわれら立つ」にはじまるカレッジソングにちなんで「幻の門」と呼ばれ親しまれてきました。2000年に現在の場所に移築されました。

14-a 馬留石（うまどめいし）

幻の門の手前のスロープには、旧島原藩邸の時代に馬をつないだといわれる馬留石も移設されています。

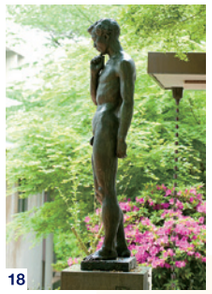
15 旧ノグチ・ルーム

現在の南館の建設に伴い2004年に取り壊された第二研究室（設計：谷口吉郎）の1階部分には、彫刻家イサム・ノグチの協力によってできた談話室があり、「ノグチ・ルーム」と呼ばれました（萬來舎とも呼ばれる）。現在は南館3階屋上庭園に移築され、「旧ノグチ・ルーム」と呼ばれています。

平和祈念 Monument

16

17


18

19

16 還らざる学友の碑

志半ばにして逝った学友を偲び、永く記憶にとどめるための記念碑として、1998年に設置。「還らざる友よ」から始まる碑文が刻まれています。2014年に慶應義塾関係戦没者名簿が納められました。

17 平和来（へいわきたる）（朝倉文夫）

戦没した卒業生たちの霊を慰めるために、卒業生有志の寄贈により1957年に設置されました。台座には小泉信三元塾長の碑文「丘の上の平和なる日々に 征きて還らぬ人々を思ふ」が刻まれています。

18 青年（菊池一雄）

モデルは応召中に喉を潰した声楽家志望の東北の青年。彫刻家・菊池一雄は「戦争の空白の中に自分を置き忘れてきたような暗い影を持った青年にひかれた」と語っています。1949年に設置されました。

19 戦没学生記念像 わだつみのこえ（本郷 新）

図書館地下1階に設置されている小さな青年像。「なげけるかいかれるかはたもだせるかきけはてしなきわだつみのこえ」という銘文が記されています（一般の方の見学はできません）。

芸術 Art

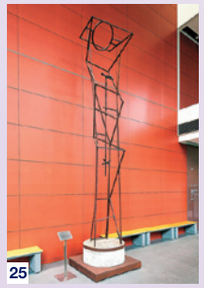
20

21

22

23

24


25

26

27

20 手古奈像（てこなぞう）（北村四海）

万葉集にうたわれた美女の姿の大理石彫刻。戦中から戦後の混乱期に大きな損傷を受けました。歴史の痕跡を残した形で修復が施され、図書館旧館1階に再展示されています。

21 星への信号（飯田善國）

塾員で彫刻家の飯田善國の作品。飯田はこの作品を「無限から信号を人間に伝え、人間の希望を無限なる者へ伝える仲介者」として存在するものであると語っています。

22 知識の花弁（飯田善國）

飯田善國の作品。薄明の闇に花開く大輪のイメージを形にしたもので、1982年、図書館の開館時に設けられました。風が強い日には上部の花弁がくるくると回る“動く彫刻”です。

23 やがて、すべてが ひとつの円の中に（宇佐美圭司）

図書館に入るとすぐ右手にある大きな壁画は、1982年の開館時に描かれた画家・宇佐美圭司による作品です。図書館1階入口で見学できます。

24 無（イサム・ノグチ）

彫刻家イサム・ノグチによる彫刻3作品の一つ。白河石の彫刻。現在、南館3階の旧ノグチ・ルーム前の屋上庭園に設置されています。

25 学生（イサム・ノグチ）

彫刻家イサム・ノグチによる彫刻3作品の一つ。高さ約4メートルの鋳造鉄棒による作品。現在、南館1階に設置されています。

26 若い人（イサム・ノグチ）

彫刻家イサム・ノグチによる彫刻3作品の一つ。高さ約2メートルの鋳造鉄板による作品。現在、南館1階に設置されています。

27 デモクラシー（猪熊弦一郎）

1949年の学生ホール建設にあたって東西両壁面に描かれた、猪熊弦一郎による壁画。壁画のある空間には「山食」（学生食堂）があり、学生に親しまれましたが、北館建設のため1991年にホールはとり壊されました。その後西校舎内の生協食堂に移設され、今も多くの学生の目を楽しませています。

慶應義塾の創立者 福澤諭吉こぼれ話

福澤諭吉 Fukuzawa Yukichi

1835年1月10日、大阪生まれ。子供は4男5女。1901年2月3日、66歳にて死去。
写真：1862年、27歳の諭吉。サンクト・ペテルブルクにて。

当時としては非常に体格のよかった福澤諭吉は散歩と居合い抜きで健康に配慮し、身体を鍛えていただけでなく、「食」にも関心が強かった。

3度の欧米への渡航で見聞した西洋の事情を、『西洋事情』『西洋旅案内』『西洋衣食住』などで広く紹介しているが、そこには「食」に関する記述も多い。咸臨丸で渡ったアメリカで初めて飲んだビールについては「その味至って苦けれど、胸膈を開く為に妙なり」と語り、後年晩酌には欠かさなかった。1870年にチフスを患ったときに牛乳を飲んで快復、その後牛乳の効用についても著している。

日本で最初の料理記事として知られているのは福澤諭吉が創刊し主筆を務めた『時事新報』の「何にしようネ」である。1893年9月から翌2月まで連載され、牛肉やトマトを使った料理も紹介されている。小文「養生の心得」でも「体力弱ければ知恵の開けもわろく、病気にも危き勘定なり。故に人々身分相応に成丈善き食餌を心懸くべし」と述べ、「食」と「栄養」への関心の高さが窺える。

46歳のときの福澤諭吉は（1881年の生命保険申込書より）

- □身長 173.5cm（当時の成人男子の平均身長は158.7cmなので、長身）
- □体重 70.25kg
- □ウエスト 84cm
- □肺活量 5,159cc

『慶應義塾豆百科』（慶應義塾編）
三田インフォメーションプラザにて販売中（1,000円/税別）
慶應義塾豆百科 検索

ペンマーク

2つのペンを斜めに交差させたデザインの慶應義塾の校章。1885年ごろ、一部の塾生が揃いの洋服を作り、帽子を着用したものの、まだ和服が一般的だった当時、その姿は周囲に奇異な印象を与えました。そこで“洋服派”の塾生は、学生らしさを前面に出すため、帽章を自分たちで作ることとし、教科書にあった一節「ペンは剣に勝る力あり」にヒントを得てデザインを考案したことが始まりといわれています。その後公式な形として認められ、今日に至っています。

三色旗

慶應義塾のシンボル・塾旗は、一般に三色旗と呼ばれていますが、実際は青・赤・青の2色で、左肩にペンマークが入っています。1886年から始まった義塾の運動会では、当初紅白の幔幕が張られていましたが、汚れが目立ち見苦しく不経済であるため、白が浅黄色（水色）に変更されました。同じころ塾旗も必要という声が高まったので、同じ配色にし、ペンマークをつけたいという話が残っています。浅黄色はやがて青色へ。そして1964年に、色や形の基準が正式に定められています。

慶應義塾大学
慶應義塾 広報室 発行
〒108-8345 東京都港区三田2-15-45 TEL：03-5427-1541
https://www.keio.ac.jp/
2022.2